



第5回

# 稲刈り体験ツアー



行先 鳥取県智頭町新田集落 マザーネット食育農園



参加費  
おひとり様

子ども  
5,500 円

大人  
8,500 円 (バス代、昼食代、軽食代含む)

小学生1年生以上は  
子どもだけで参加可能

集合

8:45

阪急高速バス  
大阪梅田ターミナル

9:10

バス出発

11:45

新田集落  
到着

解散

21:03

阪急高速バス  
大阪梅田ターミナル

【内容】 米作り講義(新田集落 岡田 一様)  
稲刈り体験、新米おにぎりパーティ  
新田集落の方々との交流、虫とり、サワガニとり体験など

【持ち物】 着替え、帽子、軍手、タオル、カップ、水筒、お菓子など



【お問合せ・お申し込み先】 Eメールにてご連絡ください 担当：上田 遥 haruka.ueda@carifami.com

株式会社マザーネット 大阪本社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 6-1-15 アセンズ新大阪 2F

TEL：06-6889-2118 (月～金 9:00～20:30)



# まいこめプロジェクト 4年の軌跡

## ◆まいこめプロジェクトとは？

自らの責任において、田植え、草抜き、収穫、脱穀、時には販売や料理まで全て行う、一貫式のお米づくり教育プログラムです。  
 自然があふれる鳥取県・智頭町に集まり、汗をかき、ときには雨や寒さとたたかいながら、「農」と向きあいます。  
 今回は、この4年間の軌跡をふりかえり、私たちが一体、何を学んだのかをまとめてみました。



### 1年目：「価値」とは何か。

ただ米を作って、売るだけでは、農家の生活は成り立ちません。国は、米作りの技術も商売も「完璧な」農家であることを求めますが、果たしてそれは現実的に可能なのでしょうか。

1年目の学びは、自ら作ったお米の「価値」をいかに伝えるかを考えることでした。「農薬なし」、「自分のオリジナル」、「かわいいパッケージ」、「味が美味しい」。子どもたちは様々なマーケティングメッセージを考えました。しかし、なかなかうまく売れず、自分の努力がお金で評価してもらえません。こうしたもどかしい気持ちを心に刻んでおいてほしい。そして、同じ思いをしている農家の人を気持ちをわかって行動できる大人になってほしいと思っています。

### 2年目：田んぼから、食卓まで。

1年目の反省の中で、「加工」の話が出ました。価値を「足す」ことができるのではないか、子どもたちはそう考えました。収穫後には、料理ワークショップを開催し、マイお米を一番美味しくなるメニューを作りました。「うわ～美味しい」。子どもたちからこの感動を得られただけで、第一のゴールは達成です。味は記憶になります。是非、マイお米を噛みしめた時の幸せな感覚を覚えていてほしい、と思います。

また、「お米づくり」は田植えをして収穫するだけではなく、誰かに美味しく食べてもらうことではじめて完結します。農業というものを、田んぼや畑から、みんなの食卓まで、一つの線として考えていってほしいと思います。

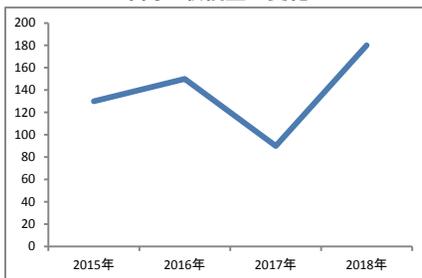


### 3年目：自然は、正直な存在。

私たちが今まで高らかにうたってきた「自然米」。つまり、農薬も肥料も使わずに、土の中の菌の力だけでお米を育ててきました。目的は、たくさん量を作るのではなく、美味しいお米(質)を作ることで、下図の収量変化が示すように、自然は正直に答えてくれます。また、稲と競争する雑草のことも忘れてはいけません。稲を刈る時、下の土が雑草で覆われていました。土の栄養が少ない上に、こうした雑草がさらに栄養を吸ってしまったので、収量は落ちてしまいました。お米で生計をたてる農家であれば、これでは生きていけません。子どもたちは、この結果をどう受け止めたのでしょうか。僕達は、いわば大自然での大実験をしたのです。実験をした後は、しっかり結果を考察したいですね。



＜4年間の収量の変化＞ (Kg)



### 4年目：こまめな雑草抜きで、収量量2倍へ。

3年目は「雑草」に悩まされた1年でした。4年目も農薬を使わずに、あえて手で雑草を抜くことにしました。お米づくりにとって地味に見える雑草抜きがどれだけ大切なことを自分たちで体験して感じて欲しかったからです。今年は稲が成長する前に雑草を抜いたので、左図の収量量が示すように、収量量が過去最高となりました。結果が実ったのです。

学校現場では、成果が目に見える「田植え」と「稲刈り」の部分だけを切り取って、「米作り」活動を行うところが多いです。雑草処理は農薬に任せたり、先生が陰で行う作業となってしまっています。「米作り」にとって何が大切なのかというのを、今回の体験を通して本当の意味で感じたのではないのでしょうか。



昨年も「此花こども食堂」に収穫した新米15kgをお届けしました。此花こども食堂は、区内の小中学生が誰でも安心して立ち寄れる居場所として、毎月第三金曜日の夕方に、子どもたちに晩御飯を提供しています。